

進む国際金融セーフティネット改革

第 45 回アジア開発銀行年次総会における篠原尚之 IMF 副専務理事による開会演説
(2012 年 5 月 5 日、於マニラ)

(演説用)

皆様、こんにちは。アジア開発銀行と国際通貨基金 (IMF) が共催する年次セミナーの第 2 回にあたる今日のフォーラムを皆様と開催できますことは喜びにたえません。さらに喜ばしいことは、今回のセミナーは開催地のフィリピン中央銀行にも共催の輪に加わっていただけたことです。

さて、本日のテーマである「国際金融セーフティネット改革」が抽象的でわかりづらいと感じられる方もいらっしゃるかと思います。しかし、私はこのテーマが私たち一人ひとりにかかわりの深い問題だと断言できます。ここ数日のアジア開銀総会の各部会で既に指摘されているように、経済の明るいニュースがアジア及び世界の他の地域の新興国から継続的に発信されております。実際、2 週間前にワシントンで開いた IMF・世界銀行の春季会合でも、IMF 加盟 188 カ国の多くの国が、わずか数カ月前と比べても自国の経済見通しが格段に明るくなっていることを確認した次第です。

そうはいいまでも、世界経済全体の回復は今後も緩慢で平坦ならざるものが予想されます。債務問題による欧州での金融混乱の再燃リスクが高く、原油市場を揺るがす地政学上の不安定が今もくすぶっているからです。ただこのアジア地域に限れば、昨年 of 著しい経済減速の後には、各国の回復力の強い国内需要に乗って経済活動の勢いが戻っております。他地域より高いアジアの成長見通しを反映して、世界からの資本流入も回復し、与信の拡大を後押ししています。

しかし、相互連関が深まっている今日の世界では、アジアも世界の他地域で起こるショックからのリスクにさらされ続けております。特に、欧州の需要がさらに落ちればアジア各国の輸出は打撃を受けますし、リスク心理が予想外に変化すれば、アジア地域へ流れ込んでいた資本が逆に流出するリスクもあります。この、どの地域たりとも影響が避けられない世界経済のぜい弱性という現状を踏まえ、今日のセミナーの議論がいかに時宜を得たものかがお分かりかと思ひます。

今回のテーマをより詳しく説明します。金融セーフティネットとはある国が外国に負った債務を返済できなくなった際に支援を受けることができる、あらゆる形の金融支援を意味します。その支援の枠組みとは、多岐にわたります。例えば、各国が万が一に備え保険として

自前で蓄える外貨準備があります。次に自国通貨が強い国と売り圧力下にある通貨の国の中央銀行間のスワップ協定などの二国間協定があり、さらに、アジアや欧州、中南米などでみられる地域レベルの融資ファシリティがあります。そして最後にわが IMF を中心とした、多国間取極などが挙げられます。この多様な支援の枠組みが、国際金融セーフティネットを形成します。

この金融取極のためのネットワーク形成は、まだ発展途上です。変革は危機や痛みの大きな出来事がきっかけとなります。この金融セーフティネットの改革も同じことで、危機に際してこれらの仕組みが意図したとおりに機能しなかった場合に、その原因となったシステムのギャップや、欠点を埋めていくのです。これは 1990 年代終わりのアジア通貨危機、最近でいえば、先の世界金融危機をみれば明らかです。ただ、この難しい点は、行き詰った国に必要な支援は与えるものの、その国が支援によってモラル・ハザードに陥らないような解決策を探すことです。このモラル・ハザードとは、そうした支援の枠組みがあることにより、その国の関連する政策が甘くなり、逆に融資者の資産が大きなりリスクにさらされることを指します。この点に関しては、地域の金融支援の枠組みは明確な利点があります。資金を提供する側と受け取る側との間に経済や他の側面で緊密な関係があるからです。IMF も金融支援の際には一貫してモラル・ハザードを起こさないよう工夫を重ねてきました。それまでの諸政策がきわめて確固として健全だった国を対象とした融資枠を設置し、そうした国の場合は、事後的コンディショナリティーを限定的なものにしてきました。

どんな経済の緊急事態にせよ、賢明な姿勢とは地平線に雲が立ち込める前に嵐に対する備えを準備することを意味します。そうすることで、いったん危機が起これば、間髪入れず対処策を打つことができるのです。この危機を予見してあらかじめ準備する姿勢の賞賛すべき事例がマルチ化されたチェンマイ・イニシアティブで、ASEAN+3 各国が利用可能なスワップ・ラインを最近 2400 億ドルへ倍増させた上で、危機防止のためにその機能を拡大しました。この歓迎すべき措置は ASEAN+3 各国向けのセーフティネットの強化にとどまらず、IMF と連携することにより、世界全体のセーフティネットもより強固なものとなるのです。

さらに全世界レベルでの事前対応措置の好事例としては、先進ならびに新興市場 20 カ国・地域 (G20) と IMF 加盟国が 2 週間前に、IMF の融資能力を 4,300 億ドル分拡大することで合意したことが挙げられます。この新たな資金は IMF のいわゆる「防火壁 (ファイアウォール)」を強化し、今後のいかなる危機をも封じ込める手助けとなります。

今日これからの議論は、現在の国際セーフティネットの状況を振り返り、最近とった改善策の有効性を評価するのによい機会となると思います。特に最近の注目すべき展開としては、世界のさまざまなレベルで整備されたセーフティネットが連携を強化して、必要資金を分け

出し合っている点です。

このアプローチにどんな利点があるのか、そしてこの潜在的シナジー効果をいかに最大限発揮させるかなどを議論できればと思います。さらに、最終的には世界全体の金融の安定性の確保に、このセーフティネット改革が、IMF、G20などで合意されたより広いイニシアティブとどう整合的に働くのかまで議論が深められればと思います。

最後に、この午後が、パネリストの方々の活発な意見のやり取りが行われるひと時となることを願いますとともに、ここに参加される皆様がご自身の疑問やコメントを積極的に発言し参加されることをお願いして、開会のあいさつといたします。

ご静聴有難うございました。